

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	これからの時代に求められる資質・能力を育むとともに、生徒の進路実現を図る教育課程編成と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善に取り組む。	(1)生徒が自身の進路を見据え、必要な資質・能力を育むことができるような学習支援を行い、また、教育課程について、問題点の検討およびそれにもなる見直しを行う。 (2)自己調整学習を支えるICT利活用の推進に努める。	(1)①授業力向上推進重点校としての組織的な授業改善に取り組む。 ②生徒の進路や必要な資質・能力の観点から教育課程について、検討する。 (2)ICTの効果的な利活用を推進する。	(1)①授業評価における当該項目の数値が昨年度に比較して向上したか。 ②教育課程について、問題の発見およびそれにもなる見直しができたか。 (2)ICTの効果的な利用ができたか。					
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	学習活動や学校行事、部活動を含めたすべての教育活動を通して、命の大切さや自他を思いやる人間性や社会性を育む。	(1)新型コロナが収束に向かい、部活動や学校行事の内容の精選を続けながら生徒の主体性を向上させる。 (2)生徒個々の抱える問題に適切に対応するとともに、主体的に自他を思いやり、命の大切さを育む心を育てる。	(1)①部活動や各学校行事で中心となる生徒を育てリーダーシップを発揮できる人材を増やす。 ②部活動の生徒が活躍できる場を増やし、加入率を保つ。 (2)①交通安全に係る定期的な指導を行う。 ②サポートドックを有効に活用し、教育相談窓口を活性化し、外部機関等とも連携し、適切な対応がとれる組織を構築。職員の知識やスキル向上を図る。	(1)①部活動では、部長・副部長、学校行事では各実行委員会との意見交換や業務の役割分担が明確か。 ②部活動が校内外に活動の場を広げているか。加入率は低下していないか。 (2)①交通事故や近隣からの苦情が減少したか。 ②SNSでの問題行動が減少したか。起こった場合、組織的に対応できたか。職員の知識やスキルの向上が図れたか。生徒個々の状況に合わせた支援ができたか。					
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりが希望する進路の実現に向けた進路指導の充実を図る。また、社会的・職業的な自立を目指したキャリア	(1)生徒自身が自ら希望する進路を見出し、その希望する進路を、諦めずに実現するための手立てを実践する。 (2)3年間を見通した進	(1)生徒自身の進路希望実現のため、2学年時に「第1志望宣言」を書かせて意識付けしたり、応用力の育成を図る特別講座を行ったりして、諦め	(1)様々な情報提供や進路指導を充実させ、生徒の進路実現についての意識を向上させることができたか。 (2)外部講師を活用した					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		教育を構築する。	路支援を行い、計画的組織的にキャリア意識の向上を図る。	ない進路実現を支援する。 (2) 「社会人に学ぶ」や外部講師による各種講演会を活用し、1年次からキャリア意識の向上を図る。	各種講演会等で生徒のキャリア意識の向上を図ることができたか。					
4	地域等との協働	地域に開かれた学校として、地域との交流や協働を通して、生徒の社会性を伸ばし、自己有用感を醸成する。また、地域と一体となった学校づくりを進めていく。	(1) 昨年からの AOBA キャラバンを継続し、更に地域との連携を強化する。 (2) 委員会活動における他グループとの連携をはじめ、AOBA キャラバンを推進することで、生徒の活動の場と社会性、人間性を広げる。 (3) 探究テーマにも「地域」を加え、生徒の地域活動を活性化させる。	(1) AOBA キャラバンについてはMoreや関連の文化部等が主体的に活動できるようにする。 (2) 学校説明会におけるボランティア委員会、学校広報としての新聞委員会など活動の場の提供を推進する。 (3) 探究的な時間のテーマ設定に「地域」を加え、プロジェクト型の探究活動も実践する。このことから地域との連携の重要性を認識させる。	(1) AOBA キャラバンの継続と生徒が主体的に活動できたか。 (2) 委員会でのグループ連携ができたか。 (3) 探究活動に「地域」を加えられたか。					
5	学校管理 学校運営	安全・安心・快適な学習環境の整備・充実に努めるとともに、事故や不祥事防止の徹底に努め、信頼される学校づくりを推進する。	(1) 教育環境の整備(安心、安全、快適な学習環境の整備) (2) 生徒、職員の学校防災活動の日常からの意識付けを図る (3) 防災備蓄品の整備と拡充 (4) PTA、同窓会、校内各グループ協力、協同を図る。 (5) 教育環境の根幹となる個人情報、特にシステムのID管理について、関連所管との連携を強化し、特に新学年のスタート時に混乱のないようにする。	(1) SDGs を視野に入れた教育環境を整備する。 (2) (3) 災害等緊急事態に素早く対応し、早期に学習環境の通常復帰ができるよう、様々な場面を想定して、対応策を検討する。 (3) 防災倉庫を増設する。 (4) PTA、同窓会、校内各グループと綿密に連携し、運営を進める。 (5) 入試センター、事務室、カリキュラムGと協議をし、システムのID作成に混乱のないよう管理体制を構築する。	(1) 重点項目にしっかりと手厚い配備・整備ができたか。 (2) 実践的かつ実用的な防災意識を、日常的に各教科などの学習活動にも広げて意識付けを図れたか。 (3) 滞りなく実施できたか。 (4) 各学校行事等で協力できたか。 (5) ID 管理の体制を構築・運用できたか。					

